

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	集中治療領域における大建中湯を中心とした漢方薬の使用は経管栄養を促進するのか			
2. 対象患者	当院ICUに入室し、経腸栄養を受けた全ての患者様			
3. 対象となる期間	平成24年1月1日 ～ 平成29年12月31日			
4. 実施診療科等	麻酔科			
5. 研究責任者	氏名	丹羽英智	所属	麻酔科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	記載事項なし			
7. 研究の意義	<p>栄養を生来の経路である腸管から吸収することは、人体の機能を維持するためには、極めて重要であり、特に集中治療を受ける重症患者においては、栄養を点滴で投与するより、腸管を用いて投与することで、病状の改善率が良くなることが知られています。このことを受けて当院ICUでは、以前より、患者様の栄養管理を行う際、経腸管栄養を第一選択としてきましたが、術後に限らず重症患者様では、腸管機能が低下しているため、嘔吐などが生じていました。近年、東洋医学から発生した漢方薬が、消化器外科、小児科領域などで注目されており、我々も漢方薬を積極的に取り入れるようになっていきます。今回、漢方薬を導入したことで、患者の経腸管栄養受け入れが改善されたかをカルテの記録を基に検討することで、集中治療という西洋医学の最先端領域に東洋医学を取り入れることの意義を証明することができます。</p>			
8. 研究の目的	集中治療を受けた重症患者様において、胃腸機能を正常化する漢方薬の使用が経管栄養受け入れを改善しているかどうか、を調査します。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	当院ICUに入室し、経腸管栄養を受けた全ての患者様を対象に過去のカルテの記載を調べ、経腸管栄養投与後の、胃液逆流量、嘔吐の頻度、栄養の増加率、便の頻度などを、漢方を投与された患者様と投与されていない患者様と比較します。			
10. 個人情報の保護	各個人データは全て匿名化され統計処理されます。またデータ自体が個人の特定性の低いものでありますので、解析やデータの公表に当たっても各個人の特定は不可能ですので、対象者のプライバシーは保護され、人権も十分に擁護される。			
11. 利益相反に関する状況	本課題の資金源は、麻酔科学講座の研究費から提供される研究費です。研究代表者及び共同研究者に対して個人的な資金等の提供や便宜が行われることはなく、本課題は麻酔科学講座の研究グループによって公正に行われます。			
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 麻酔科 丹羽英智			
	電話	0172-39-5113	FAX	0172-39-5112